



**Institute of Social Science, University of Tokyo:
Contemporary China Research Base Seminar Series (No.14)**

現代中国研究拠点セミナーシリーズ(第十四回)

報告者：馬立誠先生（元『人民日報』論説委員）

テーマ：最近の日中関係

言語：中国語、通訳なし

日時：2015年6月9日（火） 18:00～20:00

場所：東京大学社会科学研究所・2階 222会議室

キャンパスマップ：

http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_12_03_j.html

馬立誠氏紹介

1946年生まれ、中国四川省成都出身。『中国青年報』評論部副主任、『人民日報』評論部主任編集者（論説委員に相当）、香港フェニックステレビ評論員を歴任。2002年に「対日関係の新思考」を提唱し、激しい議論を引き起こした。主要著作は『交鋒—当代中国三次思想解放実録』（共著、今日中国出版社、1998年）、『呼喊—当代中国的五種声音』（共著、広州出版社、1999年）、『交鋒三十年—改革開放四次大争論親歴記』（江蘇人民出版社、2008年）、『当代中国八種社会思潮』（社会科学文献出版社、2012年）、『仇恨没有未来—中日関係新思維』（香港中和出版有限公司、2013年）など多数ある。日本では『憎しみに未来はない—中日関係新思考』（岩波書店、2014年）、『反日—中国は民族主義を越えられるか』（中央公論新社、2011年）、『謝罪を越えて—新しい日中関係に向けて』（文芸春秋、2006年）などを公刊。